

## 平成 28 年度松戸市基幹相談支援センターの評価について

基幹相談支援センターは、松戸市の相談支援の中核的な役割を担うために設置をしており、その事業の質を高めるためには、毎年、事業に対しての評価が必要となります。

平成 29 年 5 月 22 日（月）評価担当者 4 名により評価会を実施しました。

### <自立支援協議会における評価根拠>

自立支援協議会における主な機能の 1 つに「評価機能」があり、下記について評価を行うことが規定されている。【厚生労働省 障発 0328 第 8 号より】

- |   |
|---|
| (1) 基幹相談支援センターの事業実績の検証<br>(2) 市から障害者相談支援事業の委託を受ける事業者が作成する事業運営等の評価 |
|---|

また、基幹相談支援センターは国・県補助金の対象事業となっており、補助金の実施要綱である【地域生活支援事業実施要綱 別紙 2 基幹相談支援センター】において、自立支援協議会における基幹相談支援センターの事業内容評価が規定されている。

市町村は、基幹相談支援センターを設置又は委託するに当たっては、協議会等において、設置方法や実施する事業内容の事業の実績の検証等を行うこと。
---

### <評価の目的>

松戸市の相談支援の中核的な役割を担う基幹相談支援センターについて、その事業運営や活動状況を評価し、より良い事業運営等へ結びつけ、事業の質の向上を図ることを目的とする。

### <評価期間>

平成 28 年度事業【平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日】

### <評価機関>

松戸市地域自立支援協議会委員のうち評価担当者を選出

- ① 当事者：（特非）松戸市障害者団体連絡協議会 理事 荻野 正美 氏
- ② 障害福祉サービス事業所：（社福）彩会 理事長 平山 隆 氏
- ③ 教育・雇用：県立つくし特別支援学校 教頭 市川 正人 氏
- ④ 関係機関：（社福）松戸市社会福祉協議会 主任 米持 和幸 氏
- ⑤ 部会長：（社福）実のりの会 ビック・ハート松戸 センター長 古川 亮 氏  
(欠席)

### <評価会次第>

1. 平成 28 年度基幹相談支援センター事業実績報告
2. 事業実績に関する質疑応答
3. 基幹相談支援センター内の見学
4. 評価担当者評価シート記入作成
5. 基幹相談支援センターの事業実績評価

資料④

<評価項目> ※全て5点満点で採点90点満点( )は評価担当者平均

1. 基幹相談支援センターの運営体制
  - ① 窓口開設時間 (4.5)
  - ② 職員体制 (4.3)
  - ③ 個人情報等管理 (4.3)
2. 基幹相談支援センターの業務内容その1
  - ① 総合的・専門的な相談支援 (4.0)
  - ② 地域の相談支援体制の強化 (4.5)
  - ③ 地域移行・地域定着支援 (4.3)
  - ④ 権利擁護 (3.3)
  - ⑤ 自立支援協議会支援事業 (4.5)基幹相談支援センターの業務内容その2
  - ⑥ 困難事例対応 (4.8)
  - ⑦ セルフプラン対応 (3.5)
  - ⑧ その他の事業・周知の工夫 (4.5)
3. 障害者虐待防止センター業務内容
  - ① 虐待対応 (4.3)
  - ② 虐待防止啓発活動 (4.3)
  - ③ 虐待防止センターの運営体制 (4.8)
4. 障害を理由とする差別の解消の推進
  - ① 差別相談対応 (4.3)
  - ② 差別解消啓発活動 (4.3)
5. 基幹相談支援センター運営上の課題及び改善策
  - ① 運営上の課題 (4.5)
  - ② 課題に対する改善策 (4.8)

6. 総合得点 77.3点

<評価する点(抜粋)>

- ・少ない人数のなか、事務所に残る相談員を確保するシフトが整っている。
- ・各機関への連携の中心的役割を果たしていると感じた。
- ・施錠出来るロッカーでケースファイルを整理整頓して保管している。
- ・様々なネットワークに参加し、独自のネットワーク構築に意識的に取り組んでいる。
- ・他の相談支援事業所へのフォローができています。

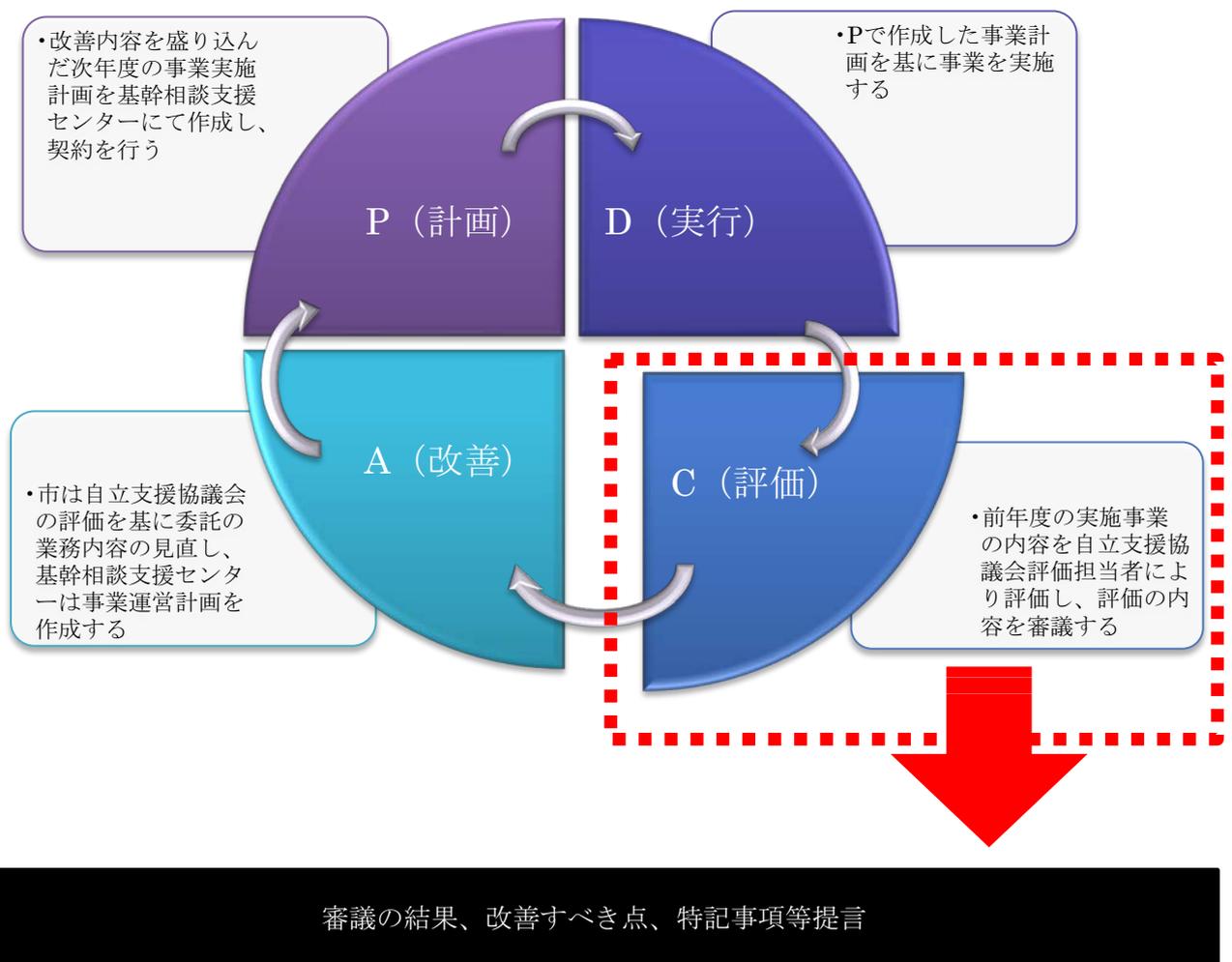
<改善を求める点(抜粋)>

- ・土日祝日の対応を行ってほしい。
- ・相談件数に対して職員数が少ない。
- ・学校関係への広範囲な広報活動が必要。
- ・緊急時の受け入れ施設だけでなく、支援をつなげる支援先の協力が必要。

#### 資料④

- ・地域の相談支援体制を強化するために、学校関係者や地域の障害者支援施設等へ協力を求めていく必要があると思う。
- ・(今後に期待しているが、) 権利擁護の取り組みの全体像が見えづらかった。
- ・自立支援協議会の活動が当事者の認知度が低いので、広く浸透するような活動になるといい。
- ・不安を抱える保護者は、セルフプランではなく、優先的に相談員が付くような仕組みを作してほしい。
- ・共生社会の実現に向けて、支援を必要とする者はもとより、ボーダーの何とかなる程度の困りごと、困り感などに対して理解を広めていく必要がある。
- ・虐待防止啓発活動について、普通学級の学校関係者向けの啓発をしてもらいたい。

#### <PDCA サイクルによる評価の流れ>



#### <評価基準の再考>

- ・評価基準については、平成 29 年度実績から、その他の委託相談事業所の事業評価も併せて実施することから、全ての委託事業所を画一的に評価するために、評価基準を統一するか、業務内容の棲み分けを踏まえ、松戸市の相談支援体制を踏まえた上でそれぞれに基準を設定していくかについて、市事務局で検討し、次回ご提案いたします。